

出題分析			
試験時間	90 分	配点	200 点
		大問数	4 題
分量 (昨年比較)	[減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化]
<b>【概評】</b> 例年どおり空所補充が 3 題，記述式が 1 題であった．今年度も正しく計算ができれば完答できる問題が多く，計算力のある受験生は高得点を確保できたものと予想される．〔1〕の小問集合では昨年度から 1 題増えたが，いずれの小問も分量が少なく解きやすいため，解き切るのにそれほど時間がかからないであろう．〔2〕～〔4〕は典型かつ頻出問題であるが，〔4〕は計算力が試される．			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
〔1〕 (1) (2) (3) (4)	〈全問空欄補充形式〉 確率 ・事象と確率 指数関数 ・指数方程式 数と式 ・恒等式 複素数平面 ・複素数と図形	くじ引きに関する問題．11 本のくじを区別して考えるとよい． 指数方程式に関する問題．与方程式を $X$ で表した後は因数定理を用いて因数分解する． 近年よく出題されている分数式の恒等式に関する問題．厳密に記述すると後の解説のようになるが，本問は空欄補充形式なので，このような細部の論理を気にせず解いてもよい． 点 $z$ が単位円上を動くとき， $w=f(z)$ の表す図形を求める問題． $w = 2\left(\cos\frac{\pi}{2} + i\sin\frac{\pi}{2}\right)z + 3i$ と式変形して図形的に考えることもできる．	やや易 やや易 やや易 やや易
〔2〕	〈空欄補充形式〉 数列 ・群数列 ・数列の和	群数列に関する問題．(1)，(2) は基本問題である．(3) は $2025=45^2$ に気が付くと計算が楽になる．(4) の <input type="checkbox"/> は $m$ を偶奇で場合分けして求める．	標準
〔3〕	〈空欄補充形式〉 三角関数 ・倍角公式 積分法 ・三角関数の不定積分 ・面積	三角関数に関する面積を求める問題．(1) は倍角公式を利用して式変形をする．(2)，(3) はそれぞれの曲線の概形を解説には載せたが， $\sin 3x$ ， $\sin 4x$ の正負が分かれば，概形を考えなくても面積計算はできる．	標準

〔4〕	〈記述形式〉 平面ベクトル ・内積 ・位置ベクトル	位置ベクトルを利用して線分の長さを求める問題。数値が煩雑であるので計算ミスに注意したい。(3)までは位置ベクトルに関する基本問題である。(4)は(3)で求めた $\overline{AP}$ を用いるのではなく、 $\overline{OP} = t\overline{OD}$ であることを用いると計算量を軽減できる。	やや難
-----	------------------------------------	--	-----

過去3年間の出題範囲

年度	数学Ⅰ				数学A			
	方程式・不等式	集合と論証	2次関数	三角比	場合の数 確率	平面図形	数学と人間の活動	
2025					[1](1)			
2024					[1](2)			
2023	[1](1)			[2]	[1](3)			
年度	数学Ⅱ						数学B	
	高次式	複素数	図形と方程式	三角関数	指数対数	微積	数列、 数学的帰納法	
2025	[1](3)			[3]	[1](2)		[2]	
2024	[1](1), [2]			[2]			[1](3)	
2023	[1](1)		[2]		[1](2)			
年度	数学Ⅲ				数学C			
	関数	極限	微分	積分	平面ベクトル	空間ベクトル	複素数平面	2次曲線
2025				[3]	[4]		[1](4)	
2024		[1](3)	[4]	[4]		[3]		
2023		[3], [4]	[3]	[3]			[4]	

※[ ]内の数字は大問番号, ( )内の数字は小問番号をそれぞれ表す。

合格のための学習法

〔1〕の小問集合は例年どおりの難易度であった。手早く〔1〕を解き切るために、過去問演習を通じてしっかりと練習しておきたい。また、日頃から丁寧に計算することと、複雑な計算もしっかりとやり切るようにしておきたい。典型問題・頻出問題の演習と計算力をつけることが合格への近道だろう。